

京都文教大学 臨床心理学部 教育福祉心理学科 開設記念 特別講演会 実施報告

松 井 愛 奈

平成 24 年 12 月 2 日（日）13 時 30 分～16 時 30 分、本学同唱館において、「子ども最前線！教育福祉心理学科の挑戦～子どもの内面にふれる創造的教育学に向けて～」と題し、教育福祉心理学科開設記念特別講演会が行われた。臨床心理学部における新学科の創設を、教育関係者をはじめとする関係諸機関及び一般への周知を図り、新学科が挑む教員養成・人材育成の新しいあり方がもつ意義について内外に広報することを目的として開催され、本学学生および学内関係者約 210 名、教育関係者や一般市民約 40 名、総勢約 250 名が来場した。

第 1 部は、吉村夕里教授による新学科説明の後、倉光修氏（東京大学 学生相談ネットワーク本部 学生相談所長）による講演「学校教育と心理臨床」。似て非なる学校教育と心理臨床の様相を明らかにしたうえで、双方が連携することの意義について、具体的なケースも多数紹介しながらご講演いただいた。

第 2 部のシンポジウム「子どもの内面にふれる新しい教師像の創造」では、香川克准教授が司会およびコーディネーターを務め、シンポジストとして、山本千世子氏（宇治市立平盛小学校 まなびアドバイザー）・山本岳氏（長岡京市

立長岡第九小学校 校長）・外村まき氏（チャイルドライン京都 事務局長）にご登壇いただいた。それぞれの立場から、さまざまな事例をもとに、子どもの姿や行動の背景をくみ取ること、子どもを抱えることのできる器としての学校、自分で解決していく力をもっている子どもを支えることの重要性等が語られ、新学科が進むべき教員養成の方向性についても提言された。



質疑応答では、平盛小学校出身で現在小学校教諭の男性から、ご自身の現場経験を絡めながら、新学科で養成を目指す教師像への賛同と期待が述べられ、近隣に住む 74 歳の女性からは、ぜひ新学科で学びたいとの声が上がった。以上を受けて倉光修氏・今井皖式教授が指定討論。事後アンケートには「教育福祉心理学科で学びたい」「もう少し早く新学科ができていれば入学して学びたかった」「これからの教育について考えさせられた」「新学科で学ぶ人がシンポジウムで言われていたような人材となってほしい」など、新学科設立への期待が多数寄せられた。

